

家族と地域のちからを神戸の未来へ

神戸市会議員

平木ひろみ

Think globally
Act locally



神戸市のために、神戸市民のために、私に何ができるかを常に問い続け、自らの体験を踏まえた現場第一主義で「住み続けたい神戸」を作りたいという想いで政策提案を続けてきました。

市民の声、
家庭の声を
市政に

住み続けたい
まちづくり

若者に選ばれるまち+誰もが活躍するまち

家庭と地域のちからを神戸の未来へ



子育て世帯の経済的負担の軽減や、一人ひとりの習熟度に応じたよりきめ細やかな学習指導の充実などは、「若者に選ばれるま

ち」という観点からも大変重要です。また、安心・安全なまちづくりを進め、子どもたちを見守り育ててくださっている地域力のある神戸は、「誰もが活躍するまち」そのものです。家庭での信念をもった子育てと、その家庭を取り巻く地域の力が、家庭の教育力を助け、社会をより豊かにしていく推進力となるに違いありません。

がんとともに生きる



がんは、1981年以来国民の死亡原因の第1位であり、生涯のうちに約2人に1人はがんにかかると推計され、3人に1人が命を失っ

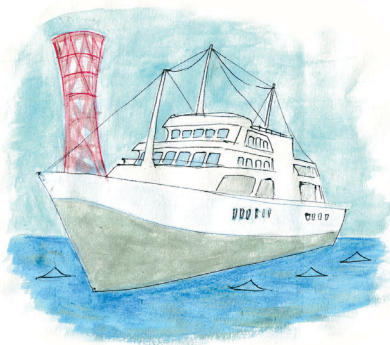
ている「国民病」といえますが、多くのがんは早期発見、早期治療によって治る時代がきています。

乳がん検診の受診を呼びかけるピンクリボン運動を推進し、乳がんだけでなく全てのがんの検診率向上を目指しましょう。自らの問題としてがんと向き合い、がんとともに生きていきます。

「真の国際人」を育てる

歴史的に多くの外国人も生活される神戸は、多文化共生、多宗教共生と呼んでもいい多様性を認めあう土壌の育まれているまちです。外国にルーツをもつ子どもたちだけでなく、国際結婚の増加など、日本国籍を有する日本語指導が必要な子どもたちも増えてきています。家族皆がよき神戸市民として学び、働き、納税する生活者として社会で共生していくためには、親も子どもも日本語の習得は欠かせません。

神戸は「真の国際人」を育てる土壌を持った都市です。



私は駐在員家族としてアメリカで6年間生活をし、子どもたち3人を現地の幼稚園、小学校に通わせました。私たち夫婦が一番大切だと考え、周囲が英語だけの環境の中で家庭において努力したのは、子どもたちを「日本人として」育てることでした。日本語を自由に聴き話し、日本文化を理解し、しっかりと日本語で考えることができれば、誇りを持った日本人として育ちません。誇りを持った日本人として育たなければ「真の国際人」になることはできないと考えています。

実現した平木ひろみの提案

ヘルプマークの導入

市内のWIFIスポット整備

ごみ収集のあり方の見直し

「やさしい日本語」を使った情報発信の推進

ポートアイランドへのアクセス向上

シティーループのサービス充実

統一したデザインの多言語案内板への変更

市章山など山麓電飾の省エネ化

神戸経済の活性化

- ・時代を見据えた国際戦略の再構築
- ・人材を呼び込む新たな誘致策
- ・都心・ウォーターフロントの魅力再生
- ・医療産業都市における企業集積と研究成果の産業化



観光・産業振興

- ・一人歩きできる市内案内表示整備
- ・「光の都こうべ」を活かした滞在型観光の推進
- ・ナイトタイムエコノミーの活性化



市民福祉

- ・WHO神戸センターと協働した認知症対策の推進
- ・ワークライフバランスの実現
- ・しあわせの村のステップアップ



教育

- ・小学校英語必修化に伴う人材確保
- ・日本語指導の必要な児童生徒への支援体制充実
- ・スマホの適正利用についての啓発



まちづくり

- ・神戸の顔としての都心三宮再整備の推進
- ・ポートアイランドの活性化と交通施策
- ・都心の総合交通体系の見直し



安全の確保

- ・都心での帰宅困難者対策
- ・密集市街地の安全確保
- ・防災福祉コミュニティとの連携
- ・津波・浸水対策の徹底



ヘルプマークの導入

ヘルプマークは縦8.5cm、横5.3cmの長方形の樹脂製のプレートで、赤地に白で十字とハートがデザインされており、周囲の人に電車やバスの座席を譲る、駅や商業施設で困っていたら声をかける、災害時に避難を支援することなどを呼びかけるもので、助けを必要としていることや支援の気持ちを表すためにつけるものです。カードの裏面は、「私が手伝ってほしいこと」を自由に記入できるようになっています。障害者手帳の有無にかかわらず、導入自治体の福祉担当窓口などで該当する希望者に無償で配布されています。2017年7月にJIS改正で規格に追加されたことを契機に神戸市でも導入すべきだと提案し、2018年4月から市内各区役所で無料で配布されています。



統一感のあるデザインで整えられ、誰でも一人歩きできるまち、人が集まる魅力にあふれた活気あるまち、それは市民にとっても住み続けたいまちであるはずで、私は、そんな素敵な神戸のまちで、ずっと暮らし続けていきたいと願っています。

